

平成26年度研究成果中間報告書《平成26年度指定教育課程研究指定校事業》

都道府県・ 指定都市番号	1	都道府県・ 指定都市名	北海道	研究課題番号・校種名	2 高等学校
				教科名	総合的な学習の時間
研究課題	新学習指導要領の実施を踏まえた教育課程の編成，指導方法等の工夫改善を中心とする生徒の学習意欲を向上させる授業づくりに関する実践研究 ○協同的に学び合うことで，探究のプロセス（課題の設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現）の充実を実現する指導計画及び指導方法等の研究				
ふりがな 学校名（生徒数）	ほっかいどうはこだてりょうほくこうとうがっこう 北海道 函館稜北 高等学校（439名）				
所在地（電話番号）	〒041-0802 函館市石川町181番地8（0138-46-6235）				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http://www.hakodateryouhoku.hokkaido-c.ed.jp				
研究のキーワード	21世紀型学力・協同的な学び合い・授業改善・全校体制での取組				
研究成果のポイント	ア 21世紀型学力 ・「稜北生に身に付けさせたい力」について明らかにした。 イ 全校体制での取組 ・総合学習委員会が各学年と連携して，総合的な学習の時間を3年間見通した計画に基づき実施した。 ・プロジェクト委員会が各教科と連携して，協同的な学び合いの実践方法や課題の共有化を図った。 ウ 協同的な学び合い ・実施率の目標を10%以上と決め，全教員で取り組むとともに，課題を明らかにした。				

1 研究主題等

(1) 研究主題

21世紀型学力の育成を目指して協同的な学び合いの一層の充実を図るため，各教科・科目の授業との関連を図った「総合的な学習の時間」の組織的，計画的な指導計画及び指導方法の実践研究

(2) 研究主題設定の理由

- ・学力向上の取組（H18～H20 北海道教育委員会，H21～H23/H24 文部科学省の推進校）において，「総合的な学習の時間」における思考力や表現力の育成を位置付け，思考ツールの活用方法の習得，小論文作成，プレゼンテーション等を実施してきた。
- ・これらの成果を踏まえ，平成25年度には国立教育政策研究所教育課程研究指定校事業において，「総合的な学習の時間」で習得した思考ツール等を活用して，全教科で協同的な学び合いを取り入れて授業改善に取り組んだ。
- ・今後も「21世紀型学力」の育成を目指し，「協同的な学び合い」の一層の改善・充実を図ることを目的として研究主題を設定した。

(3) 研究体制

- ・各学年主任のほか，各分掌・各教科から委員を選出し，学力向上等の方策を推進するための「プロジェクト委員会」を中心として研究計画を立案し，「総合的な学習の時間」と各教科・科目の関連を図って研究を推進し，成果を発信する。
- ・また各学年団から2名ずつ選出し構成する「総合学習委員会」が主体となって，「総合的な学習の時間」の指導計画及び研究計画を立案し，ホームルーム担任及び副担任が分担して授業を行い，研究を推進する。

(4) 1年間の主な取組

平成 26 年 度	4月	・研究計画の立案・検討 ・「協同的な学び合い」の手引の作成，配布 ・「総合的な学習の時間」の指導計画策定と生徒向けガイダンス	
	5月	・全教科で「協同的な学び合い」の取組を入れた年間指導計画作成	
	6月	・校内研修会 本研究の取組の柱の確認 *本校が目指す「21世紀型学力」について，全教員で検討	
	6月～12月	・「協同的な学び合い」を取り入れた授業の実践と授業評価 (生徒による授業評価，教員相互による授業評価の実施)	
	9月	・教育課程研究指定校事業研究協議会 *教育課程調査官による講演「21世紀型学力とは」 *公開授業，道内高等学校・近隣中学校の参加による研究協議 (他校から15校24名参加)	
	11月	・中間反省 *本校がめざす「21世紀型学力」と教育活動の関連を明らかにする。 *「協同的な学び合い」で身に付けさせたい力を学校全体で把握する。 *「総合的な学習の時間」における探究活動の深化を図る必要がある。	
	12月～2月	・研究のまとめ *研究紀要の作成，「協同的な学び合い」の手引の改訂 *「総合的な学習の時間」の見直し	

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

ア 21世紀型学力

「稜北生に身に付けさせたい力」を明らかにし，教員全体で共有し，「協同的な学び合い」を取り入れて，「総合的な学習の時間」や教科の授業の中で育成する。

イ 全校体制での取組

「総合的な学習の時間」及び各教科・科目の取組等の研究全体を推進する「プロジェクト委員会」と，「総合的な学習の時間」の研究を推進する「総合学習委員会」を研究推進の中心に位置付け，各教科・科目及び各学年が取組を実践し，全校体制で取り組む。

ウ 協同的な学び合い

「21世紀型学力」を育成するためには「協同的な学び合い」が効果的であるという考えに基づき，「総合的な学習の時間」において，「協同的な学び合い」に必要なスキルを身に付けさせ，各教科・科目の授業で「協同的な学び合い」を実施する。

(2) 具体的な研究活動

ア 21世紀型学力

「育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会—論点整理」，「社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程成の基本的原理」(国立教育政策研

究所)等からキーワードを取り上げ，6月の校内研修において，4分類20の力を稜北生に身に付けさせたい「21世紀型学力」としてまとめた。また，それぞれの力を，学校の教育活動全体(教科・「総合的な学習の時間」・特別活動・部活動)のどこで育むのか一覧表にまとめた。

イ 全校体制での取組

「総合的な学習の時間」の年間指導計画を作成し，学年団を中心に指導を行った。「総合的

な

学習の時間」におけるグループをホームルームの座席の基本として，各教科・科目の授業での「協同的な学び合い」の活動に活用した。取組の様子については，「プロジェクト通信」を発行し，生徒及び各家庭に配布し，ウェブページにも掲載した。

ウ 協同的な学び合い

「総合的な学習の時間」における探究活動を通して，「協同的な学び合い」に必要なスキル

を

身に付けさせる。必要なスキルとして、思考ツールを活用して、考えや意見を整理・分析する力を高めること、小論文やプレゼンテーション資料の作成に取り組み、論理的思考力や表現力を高めること、傾聴スキルなどの「聴き合う」関係を築くスキルを身に付けさせ、コミュニケーション能力を高めることなどを行った。これらを「総合的な学習の時間」及び各教科・科目の授業の「協同的な学び合い」に取り入れて「21世紀型学力」の育成を図った。また、「協同的な学び合い」の手引きを作成し、実施の助けとするとともに、実施してみても難しさや疑問点等をプロジェクト委員会で取りまとめ、工夫改善のアイデアを全教員間で共有した。今年度からは公開授業も「協同的な学び合い」を実施している授業とし、その際の教員相互による授業評価シートを生徒の活動を見て評価することを中心とした形式へと改善した。

3 研究の成果と課題

(1) 成果

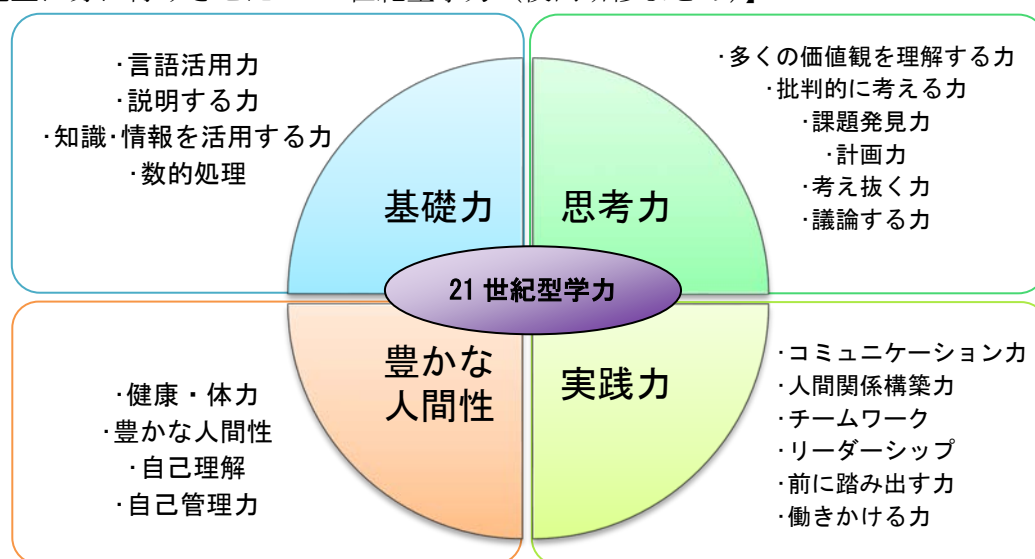
ア 21世紀型学力

「育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会—論点整理」、 「社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程編成の基本的原理」(国立教育政策研究所)等を参考にして、校内研修会やプロジェクト委員会での検討を通して、次の図のように「稜北生に身に付けさせたい21世紀型学力」を明らかにした。

また、教科・「総合的な学習の時間」・特別活動・部活動のどの場面で、それぞれの力を育んでいくのかを一覧にまとめた。

このことにより、本校の「協同的な学び合い」の実践が何を目指して取り組んでいるかを全教員で共有し、可視化することができるようになった。

【稜北生に身に付けさせたい21世紀型学力(校内研修まとめ)】



*分類は、国立教育政策研究所「教育課程の編成に関する基礎研究報告書5 社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程編成の基本原則」(平成25年3月)「第2章 4.「21世紀型能力」の提案」を基に作成した。

イ 全校体制での取組

「21世紀型学力」を育成するために効果的であると考えられる、「協同的な学び合い」を全教科で実施することによって授業改善に取り組み「生徒による授業評価」と「教員相互による授業評価」により、「協同的な学び合い」の授業形式の研修を深め、課題を教員全体で共有した。

「協同的な学び合い」という共通の視点で授業の方法を見ることで、教科を越えての授業公開が行いやすくなった。また、全教科で「協同的な学び合い」を実施することで、生徒自身も学び合いに慣れ、円滑に実施できるようになってきた。

また、「総合的な学習の時間」において、1年生のグループで活動する場面を意識的に多く設

定するとともに、教科「情報」で早い段階で効果的な情報収集やプレゼンテーションの方法を習得させることなどにより、各教科の「協同的な学び合い」の実践を円滑に進めることができた。

ウ 協同的な学び合い

今年度は一斉授業だけの授業スタイルからの改善を目指して、50分の授業のうち5分間、

10 時間の授業のうち 1 時間など「協同的な学び合い」の実施率の目標を 10%以上とし、全教員

がこの目標を超えることができた。実技科目では、技術の獲得に有効であり、80%近い実施率となっている。

「協同的な学び合い」の授業に関わる教員アンケートを実施した結果、70%の教員が「コミュニケーション力」（上記の分類では実践力に入る）、67%の教員が「説明する力」（基礎力）を高めることができたとの回答があった。他には、「考え抜く力」（思考力）や「議論する力」（思考力）、「多くの価値観を理解する力」（思考力）を高めることができたとの回答が約 40%となっている。生徒アンケートでは、「コミュニケーション力」が伸びたと回答した生徒が 85%、「説明する力」が伸びたと回答した生徒が 64%であった。他には「チームワーク」（60%）が高まったと回答している。また、85%の生徒が「協同的な学び合い」が好きだと回答した。

(2) 課題

ア 21 世紀型学力

稜北生に身に付けさせたい「21 世紀型学力」の 20 の力について、次のような検討が必要である。

- ①今年度の「協同的な学び合い」等の実践を通して、身に付けさせる力として、この 20 の力が適切であるのか再検討すること（それぞれの力の表現も含めて）。
- ②学校教育活動全体の中で、どのような活動により、「21 世紀型学力」のどの力が身に付くのかを全教員で共有すること。
- ③キャリア教育の基礎的・汎用的能力や道徳教育で身に付けさせる力を、「21 世紀型学力」の枠組みとの関連を明らかにすること。

イ 全校体制での取組

「協同的な学び合い」の充実に向け、「総合的な学習の時間」における活動と、各教科・科目

の活動の一層の連携を図る必要がある。さらに、個人の実践の共有化を図るとともに、教科や学年のチームとして「協同的な学び合い」を推進していく必要がある。

「総合的な学習の時間」における探究活動の深化を図るため、全校体制で改善に取り組む必要がある。

ウ 協同的な学び合い

今年度の実践を通して、約 7 割の教員が、教材や課題の設定の難しさを感じている。もっと生徒が夢中になり、主体的かつ協働的に取り組むことができるよう、教材や課題、あるいは指導方法の工夫を図り、校内での積極的な情報交換を促進したい。

「協同的な学び合い」について、生徒の肯定的な回答が多い一方で、授業内容の定着が図られているか確信が持てないという教員の感想もあり、「協同的な学び合い」の中で、学習成果を生徒個人に還元させる工夫を図る必要がある。

(3) 研究 2 年目へ向けての取組

ア 21 世紀型学力

- ・稜北生に身に付けさせたい「21 世紀型学力」の 4 分類、20 の力について、1 年目の実践を踏

まえて再検討を行う。

- ・教育活動（特に各教科）の中で、どのような活動により、どの力が身に付くのかを検証し、その評価方法について検討する。
- ・キャリア教育や道徳教育で身に付けさせる力と「21 世紀型学力」の関連を検討する。
- ・平成 32 年度から導入される予定の「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」の検討状況を視野に入れながら、「協同的な学び合い（アクティブ・ラーニング）」で伸ばす「21 世紀型学力」の具体的な内容について研修を深める。

イ 全校体制での取組

- ・「協同的な学び合い」の充実に向け、「総合的な学習の時間」における活動と、各教科・科目の活動の関連を整理して一層の共有化を図る。
- ・「総合的な学習の時間」における探究活動の深化を図るため、全体計画及び 3 年間を見通した計画の全面的な見直しを図る。

ウ 協同的な学び合い

- より実践的な内容を加えた「協同的な学び合い」の手引を作成する。
- 「協同的な学び合い」の指導方法の工夫などについて、日常的に授業実践の情報交換を図ることができるよう取り組む。
- 「協同的な学び合い」等のアクティブ・ラーニングの実践に関わる最新の全国的な動向について情報収集し、学校全体への還元を図る。
- 可能な限り、中学校との連携を図り、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習（アクティブ・ラーニング）の指導方法についての研修を行う。